

ブヌン語の、「望ましくない状態」「姿勢」を表す形容詞の派生に 用いられる接頭辞 **matu-** —— 形態分析と意味記述

野島本泰

1 はじめに

本稿ではブヌン語の、「望ましくない状態」を表す形容詞の派生に用いられる接頭辞 **matu-** をとりあげ、形態分析と意味記述を行う¹。

ブヌン語は、台湾の中南部で話されている言語で、オーストロネシア語族に属する。ブヌン語には北部方言、中部方言、南部方言の三つの方言があり（厳密に言えば方言群）、本稿の内容は、筆者が1994年から高雄縣那瑪夏郷（旧 三民郷）民生村でおこなっている言語調査で得た南部方言の言語資料がもとになっている。調査は主にブヌン語と日本語で行い、補助的に媒介言語として中国語を用いた。

南部方言の音素目録は以下のとおり：p, t, k, ' [ʔ], b, d, s, h [χ], v, z [ð], m, n, ng [ŋ], l [ɺ] [以上、14の子音]；i, a, u [u~o] [以上3つの単母音]。アクセントは、音韻的に弁別的ではない。2音節以上からなる語の場合、語末から数えて2番目の母音を含む音節が高いピッチで発音される。

基本語順は VS/VAP。主に従属部標示 (dependent-marking) 型。フィリピン型のヴォイス（いわゆる「焦点」）をもつ。格標示が名詞句の前におかれる小詞とともに、名詞句の末尾に現れる後倚辞指示詞によっても行われる。品詞は、統語的には内容語と機能語の二つの範疇を主とし、形態法により動詞、形容詞、名詞、代名詞、指示詞、間投詞などに細分される。

2 接頭辞 **matu-** の概観

接頭辞 **matu-** を含む語の例を挙げる。

- (1) (a) ma-sanglav 「青い、緑色の」
(b) matu-sanglav 「（痣になって）青くなっている」
- (2) (a) ma-bahis 「熱い、暑い」
(b) matu-bahis 「熱がある」
- (3) (a) ma-haliv 「乾いている」
(b) matu-haliv 「（木の枝が）枯れて乾いている、または、葉が枯れ落ちている」「（子供が栄養不足で）病気ばかりしている、元気がない」「（女が）子供が産めなくなっている」

¹本稿は、2007年11月に、信州大学における日本言語学会第135回大会でおこなった口頭発表をもとに執筆した。発表の際には多くの方からご意見を頂戴した。お名前を挙げることはできないが、ここに謝意を述べたい。

- (4) (a) ma-hatba 「屈強な、体が丈夫な」
 (b) matu-hatba 「(人や動物が死んでから時間が経過し) 肉がかたくなっている」

例 (1a), (2a), (3a), (4a) はいずれも接頭辞 ma-+語根からなる語で、特に価値判断を含まない「普通の状態」を表す。それに対し、例 (1b), (2b), (3b), (4b) はいずれも接頭辞 matu-+語根からなる語で、語根が表す状態が「けが」や「病気」「心身の脆弱」として、つまり「望ましくないこと」として発現していることを表す。接頭辞 matu- の、例 (1b), (2b), (3b), (4b) のような用例を、ここでは便宜的に「用例 A 群」と呼ぶことにする。

一方で、接頭辞 matu- は、次の (5b), (6b), (7b), (8b) のように、「姿勢」や「表情」を表す語にも少数ながら見つかる。例：

- (5) (a) min-duldul 「(寝ている状態から) 立ち上がる (動作)」
 (b) matu-duldul 「立ち上がった状態にいる (状態)」
 (6) (a) tin-sauk 「腰を曲げて顔を下に向ける、うつむく、かがむ (動作)」
 (b) matu-sauk 「うつむいた状態にいる (状態)」
 (7) (a) tin-ngalbah 「ぱっと (意思的に) 口をあける (動作)」
 (b) matu-ngalbah 「ぼかんと口を開けたままの状態にいる (状態)」
 (8) (a) ma-ngiit 「笑みを浮かべる、微笑する (動作)」
 (b) matu-ngiit 「笑みを浮かべた表情にいる (状態)」

例 (5a), (6a), (7a), (8a) はそれぞれ接頭辞 min-, tin-, tin-, ma- が語根に結びついてできている語で、いずれも動作を表す。それに対し、例 (5b), (6b), (7b), (8b) はいずれも接頭辞 matu-+語根からなる語で、動作を終えた結果の状態であることを表す。接頭辞 matu- の、例 (5b), (6b), (7b), (8b) のような用例を、ここでは便宜的に「用例 B 群」と呼ぶことにする。

2.1 先行研究の概観

ブヌン語の先行研究で、接頭辞 matu- を記述、分析しているのは、本論文の著者の知る限り、林太ほか(2001)だけである。林太ほか(2001)は、南部方言の形態論を概観したものである。接辞もほぼ網羅的に列挙し、ひとつひとつの接辞について数多くの例を挙げている点で、学術的価値は高い。しかし、接頭辞 matu- の記述・分析に関しては、林太ほか(2001)には以下の四つの問題点がある：

- (あ) 接頭辞 matu- を、接頭辞 ma- と接頭辞 tu- からなる複合接辞、つまり二つの接辞の連続²だとしながら、その根拠を示していない点。
 (い) matu- の表す意味を「状態を呈する」としか記述していない点。
 (う) 動詞を作り出す接辞だとしている点。
 (え) 生産性に何も言及していない点。

本稿では、以下、接頭辞 matu- の形態分析を行い、その意味を記述する。

²原語(中国語)では「複合綴」のうちの「前綴」となっている(林太ほか2001:92)。

2.1 接頭辞 *matu-* の形態分析

2.1.1 語基の種類

接頭辞 *matu-* は語根形態素に結びついて現れる（例外は後で述べる）。語根形態素は、自由形態素であることもあるし、また、拘束形態素である場合もある（拘束形態素の例は *matu-kulaaz* 「痩せている」³など）。

接頭辞 *matu-* は「名詞語根」と呼んでいいものと結びつくこともある。例：

- (9) *matu-baning* 「人が誰かに何かするよう命令されたのに対し、それに従いたくなくて、炉のところで火にあたってじっと動こうとしない状態」（*baning* 「炉 (hearth, fireplace)」）

2.1.2 *matu-* は接頭辞連続か

林太ほか(2001)は接頭辞 *matu-* を接頭辞 *ma-*, *tu-* の2つが連続したものと分析している。本稿ではこの分析をとらない。その理由は、1つは *ma* と *tu* の間に他の接頭辞が入りうることがないこと、もう1つは問題の語形が (*ma* なしで) *tu* で始まることがないことである。

ただし、この分析にも例外が一つ見つかっている。「(以前は太っていたが) 痩せた」というのはどう言いますか?」と調査協力者に訊いたところ、次の二つの語形が出てきた、つまり、*matu-kulaaz=in* と *is-tu-kulaaz=in* の2つである (=in というのは新しい事態の成立を表す)。この2つめの語に含まれる接頭辞 *is-* は「弱まって...になる」といった語を派生する接頭辞で、次のような例にも見つかると、かなり生産的な接頭辞である：*is-dumdum=in* / *ma-dumdum=in*。「もう暗くなりました」。 *istu-kulaaz=in* の *istu-* を *is-+tu-* と分析するのであれば、*matu-kulaaz=in* の *matu-* も二つの形態素、つまり、二つの接頭辞の連続と見なすべきで、接頭辞 *tu-* を析出することになる。このような例が他にいくつあるのかについては今後の精査を待ちたい。

2.1.3 接頭辞 *matu-* と語根形態素の間に入り込む接頭辞 *ka-*

次の例 (10b) は、接頭辞 *matu-* と語根の間にも別の形態素（おそらくは接頭辞）が介在している唯一の例である。

- (10) (a) *ma-z'av* 「恥ずかしい、恥ずかしがる」
(b) *matu-ka-z'av* 「恥ずかしい、恥ずかしがる」

この *ka-* は、おそらく被動者焦点形 *ka-z'av-un* 「…のことを恥ずかしがる、…に恥ずかしがらせる」や相互形 *ma-pa-ka-z'av* 「お互いに（相手のことを）恥ずかしがる」に現れている接頭辞 *ka-* と同じものである。例 (10b) でなぜ接頭辞 *matu-* と語根 *z'av* の間に接頭辞 *ka-* が介在するのかが不明である。語根の音素配列（2子音連続で始まる）が関係しているのかもしれない。今後のより詳しい分析を俟ちたい。

³ ちなみに、中部方言群のタクバヌアズ方言（南投縣信義鄉明德村）では、「痩せている」を表す語は *matu-dikla'* で、やはり接頭辞 *matu-* を含んでいる (cf. *ma-dikla'* 「悪い」)。

2.1.4 接頭辞 *matu-* を含む語の品詞

ところで、ブヌン語には、名詞や形容詞について「…になる」という意味を表す語を派生するのに用いられる接頭辞 *min-* がある（接頭辞 *min-* は動詞にはつかない。ただし少数の例外があるが）。例：

- (11) (a) *min-danum* […になる－水]「水になる、溶ける」 (cf. *danum* 「水」)
(b) *min-ma-sial* […になる－形容詞派生接頭辞－よい]「よくなる」 (cf. *ma-sial* 「よい」)

この接頭辞 *min-* が、「接頭辞 *matu-* + 語根」のさらに前に結びつきうることがわかっている（許容度はあまり高くないようであるが）。例：

- (12) (a) *min-matu-bahis* […になる－接頭辞－熱い]「熱が高くなる」
(b) *min-matu-kulaaz* […になる－接頭辞－悪い(??)]「痩せる」

この事実は、「接頭辞 *matu-* + 語根」が動詞ではなく形容詞であることを示していると思われる。

2.1.5 接頭辞 *matu-* の意味記述

林太ほか (2001) は接頭辞 *matu-* の表す意味を「状態を呈する」としか記述していない。それは、第2節で A 群と B 群にわけた 2 つの異なる用例群をひとつにまとめて両者に共通する意味を抽出した結果である。接頭辞 *matu-* を含む語には本論文の著者の考えでは「意味の焦点」が 2 つあり、ひとつは用例 A 群の「望ましくない状態」であり、もうひとつは用例 B 群の「姿勢、表情」である。とりあえずこの 2 つに大別しておいてから、両群にまたがる用例やどちらにも入らないように見える用例を検討するほうが妥当だと思われる。

用例 A 群と用例 B 群は完全にわかれて存在するわけではない。たとえば (7b) の *matu-ngalbah* 「ぼかんと口を開けている（状態）」は、具体的にどんな場合に用いられるかということ、例えば「いいたいことがあるのに、言葉が出てこない」「ひとが目の前で歌っているのを聴いて、口を開けっぱなしにしている」「空腹時に他人が食べているのを見て、口を開けっぱなしにしている」など、「口を開けた状態にしている」のを「みっともない」と判断している場合である（ただ単に「口を開けている（状態）」を指す中立的な語としては *ma-ngalbah* がある）。したがって、(7b) は用例 A 群と B 群のどちらにも属するといえるのである。同じことが次の (12) についても言える。

- (12) (a) *ma-nuas* 「声がしゃがれている、かすれている」
(b) *matu-nuas* 「風邪をひいて声がしゃがれている、例えばカラオケで歌いすぎて声がかすれている」

次の (13b) も A 群、B 群のどちらに入るのか、はっきりしない例である。

- (13) (a) *mal-ma-mangha* 「顔を上に向けている、仰ぎ見ている状態にいる」
(b) *matu-mangha* 「顔を上に向けている、仰ぎ見ている状態にいる」

例 (13b) は一見したところ B 群に入るとと思われる（「姿勢」を表しているのだ）。しかし、この語が使われるのにふさわしい状況を尋ねてみたところ、たとえば「上ばかり見て、下を（道を）よく見ないから、転んだ」といったことを述べるのに使われるとのことだった。つまり、この語の使用が

ふさわしいのは、「顔を上に向けて、空を仰ぎ見ている姿勢」を「望ましくない状態」としてとらえる場合らしいのである。(13b)は、A群に入れてもいい可能性があることになる。

また、例(9)も、「炉のところで火にあたって、じっとして動こうとしないでいる状態」を表している点では用例B群に入るようにも見える。けれども、「怠惰」あるいは「意地っ張り」という「望ましくない状態」を表している点では用例A群に入るようにも見えるのである。

このように、用例A群と用例B群の二つは、中心的な用例では截然と別れるように見えるけれども、両者が重なり合う領域があるらしい。このことを上記の事実は示しているように思われる。

次は、用例A群にも用例B群にも属さないかのように見える用例である：

(14) (a) ma-nungsiv 「(場所が) 静かな」

(b) matu-nungsiv 「(人が) 声を出さないで押し黙っている、静かにしている」

(15) (a) ma-naskal 「うれしい」

(b) matu-naskal 「うれしい」

例(14a)は例えば「真夜中だから、静かだ(何も音や声がしない)」などというときに使われる。一方、例(14b)は「(集会で)誰かが話し出すのではないかと思って、声を出さないでじっと押し黙っている」などというときに使われる。「黙って声を出さないでいる」のは病気でも怪我でもないから用例A群には入らないように見える。しかし、姿勢や表情でもないから用例B群でもなさそうだ。(15b)はA群にもB群にも入らないように見える例である。

5 接頭辞 matu- と人称制限

次の例を見てみよう。

(16) (a) ma-hanimulmul 「孤独で寂しい」

(b) matu-hanimulmul 「一人で寂しそうにしている」

この2つの語の用法に関して一部の調査協力者から次の内省報告があった：「「私は寂しい」という場合、(16a)を使うことはできるけれども、(16b)は使えない。(16b)は寂しそうにしている人を見て、「あの人は…」と形容する場合に用いるのであって、話し手が自分自身の心の状態を形容するのにはふさわしくない」。これが事実だとすると、本稿で検討した接頭辞 matu- の意味とはどのような関係があるのだろうか。今後の詳しい分析を俟ちたい⁴。

6 接頭辞 matu- の生産性

接頭辞 matu- はどんな語根にも生産的につくというわけではない。これまで結びつきが確認されている語根は40数個しかない。ブヌン語には、人や物の性質や状態を表す語根が少なく見積もっても500個は存在する(おそらく1000個以上あるだろう)。これを考慮すると、上記の事実は接頭辞 matu- の生産性がきわめて低いことを示していると思われる。実際、第4節の意味記述に照らし合わせて「あってもよさそうなのに存在が確認できない語」が多数ある。例えば、ma-bahis「熱い」に対

⁴接頭辞 matu- の使用と人称制限がかかわる語の組は、ここで挙げた matu-hanimulmul 以外には見つかっていない。

応する *matu-bahis* 「熱がある」はあるのに、*ma-kazav* 「寒い」に対応する**matu-kazav* は存在しない。また、*min-duldul* 「座っている状態から立ち上がる」に対応する *matu-duldul* 「立っている」はあるのに、*min-dangkaz* 「横になっている状態から立ち上がる」に対応する**matu-dangkaz* は存在しない。

しかし、その一方で、比喩の原理で作りに出されたと思われる「新語」に接頭辞 *matu-* が含まれている、そういう用例が1つだけ見ついている。

(17) *matu-babu* 「(人が) 豚のように肥えている」 (cf. *babu* 「豚」)

「新語だ」というのは、調査協力者の内省報告によるものにすぎない。「自分が小さいころはこんな言葉はなかった」という意味の報告があったのである。仮にこの語がほんとうに「新語である」とすると、比喩の原理で「新語」が造られる際に、接頭辞 *matu-* の基本義がまだ生きていて、新語を造る際にその基本義が参照されたことになる。つまり、若干の生産性もあるとっていいように思う。接頭辞 *matu-* は、「限られた数の語に半ば化石化して埋没している接辞」というものではなく、「活きている接辞」だと見なせることになる。

7 結論

本稿の結論は以下の通り：

- (ア) 接頭辞 *matu-* は単一の形態素 (接頭辞) である可能性もある。しかし、二つの接頭辞、つまり接頭辞 *ma-* と接頭辞 *tu-* の連続だと見る可能性もある。
- (イ) 接頭辞 *matu-* を含む語の意味は、次の二つに大別できる：
 - [a] けがや病気、心身の脆弱をはじめとする、望ましくない状態。(多数)
 - [b] 一定の時間持続する体の姿勢、顔の表情などの状態。(少数)
- (ウ) 接頭辞 *matu-* を含む語は、大部分は動詞というよりはむしろ形容詞だといえる。
- (エ) 接頭辞 *matu-* はどんな語根にも生産的につくというわけではない。これまで接頭辞 *matu-* との結びつきが確認されている語根は 40 数個しかない。それほど多くはない。しかし、その一方で、比喩の原理で造りに出されたと思しき「新語」に接頭辞 *matu-* が含まれているなど、若干の生産性も観察される。

謝辞

1994 年から高雄縣三民郷民生村で十数回にわたって行なってきた言語調査では、多くの方々にお世話になった。中でも、† 林星 (*Wani=Bukun Ismahasan*) 氏 (1916 年生まれ)、朱如寶 (*Lanihu Suhluman*) 氏 (1928 年生まれ)、周文罷 (*Bukun Takistaulaan*) 氏 (1928 年生まれ)、周銀能 (*Lanihu Takistaulaan*) 氏 (1942 年生まれ) には、ブヌン語の分析に関わる煩わしい質問につきあっていただき、多くのことを教えていただいた。ここに記して謝意を表す。

また、言語調査の一部は以下の財団などから経済的な支援を得ておこなった：三菱信託山室記念奨学財団、順益台湾原住民博物館 (林迺翁文教基金会)、日台交流センター (歴史研究者交流事業)、布施基金学術奨励費 (若手研究者研究費)、文部科学省科学研究費特定領域研究「環太平洋の「消滅に瀕した言語」に関する緊急調査研究」、日本科学協会「平成 16 年度笹川科学研究助成」。ここに記し、謝意を表したい。

付録 1. 接頭辞 **matu-** を含む単語一覧

以下には、筆者が採集した、接頭辞 **matu-** を含む単語を、アルファベット順に並べた。

matu-babu 「<新>豚のように太る」 cf. **babu** 「豚」

matu-bahis 「熱がある」 cf. **ma-bahis** 「暑い、熱い」

matu-balva 「晴れている」

matu-baning 「<古>人に命令されても、囲炉裏のところで日に当たって、動こうとしない」 cf. **baning** 「囲炉裏」

matu-busluk (= **matu-haliv** と同義。) cf. **ma-busluk** 「乾いている」

matu-danghas 「(夕焼けで空が) 赤い」「叩かれたところが痣になり赤くなっている」 cf. **ma-danghas** 「赤い」 e.g. **bantas mais tal-hanunus-an hai, matu-danghas.**

matu-diav 「バナナが熟して黄色くなった状態 (= **matu-zaum**)」

matu-duhlas 「白くなっている、白みを帯びている、夜が明ける直前に空が白み始めている」 cf. **ma-duhlas** 「白い」

matu-duldul 「(すでに) 立ち上がっている状態にある」 cf. **min-duldul** 「立ち上がる、起立する」

matu-dumdum 「雲や霧が出てきて、暗くなる。雨が降りそうだ。」 cf. **ma-dumdum** 「暗い」 e.g. **na hudan-an i, matu-dumdum a dihanin=an.**

matu-haiklas 「死んだ動物の肉が、時間が経過して硬くなっている；肉を冷凍庫に入れたので硬くなっている」 cf. **ma-haiklas** 「硬い」 e.g. **bantas mais tin-puskuz hai, matu-haiklas.**

matu-haisun 「ご飯、おかずが腐って臭いがするようになった状態」 cf. **ma-haisun** 「ご飯、おかずが腐って臭いがする」 e.g. **haising=an hai, malbuntu=in hai, matu-haisun. saak-un. tahdupaian=in matu-haisun.** 「黴が生えている」

matu-haisbut 「人を見てもうれしくない、しゃべらない、顔が怒っている」

matu-haishais

matu-haliv 「(a) (木の枝が) 枯れて乾いている、(b) (生きている木が) 葉がない、(c) 子供が (栄養不足で) 病気ばかりしている、元気がない、(d) (女が) 子供が産めない」 cf. **ma-haliv** 「乾いている」

matu-halpispi 「髪がくしでとかしていないので、乱れている」 (= cf. **ma-halupatpat**)

matu-halput 「瓜 (**tangkui**) が日に当たってしぼむ。しわしわになる。形が変わってしまった状態」 cf. **ma-halput.** e.g. **'adii 'uvaaz=a hai, supah a kaun-un hai, nitu talsusuus. matu-halput.**

matu-hanimulmul 「さびしい、悲しい」 e.g. **laupang saitia pingaz mataz hai, nii tu kunata, ilumah sisivung matuhanimulmul. cf. ma-hanimulmul**

matu-hanivaang 「例えば女が子供にも死なれ、夫にも死なれ、ひとりぼっちで寂しくなり、自殺してしまいたいと思う」 **uka sui tu na siza pingaz tu uvaaz, matuhanivaang 'is'aang miliskin. na maaz a is-siza pingaz=tia. supah a 'iniliskinan. cf. ma-hanivaang**

matu-haspan 「動物の毛皮が (工程を経て) 柔らかくなった、着やすくなった」 cf. **haspan**

matu-hatba 「<古>=**matu-haiklas**」

matu-hauthaut 「地面に挿した木や柱が容易には動かなくしっかりしている；人が命令されても動かない、じっとしている状態」 cf. **ma-hauthaut**

matu-hayav 「長期間病気で寝ていて、顔色が悪くなる」 cf. **hayav** 「布」

matu-hula 「声がかすれている（長時間はなしをして）」 cf. ma-hula 「声がかすれている（風邪をひいたせいで）」

matu-hultis 「死んだ人が顔がこわばって口を開けられないでいる」 cf. ma-hultis

matu-kuis 「栄養不良や病気のために（子供が）大きくならないでやせ細っている」 cf. ma-kuis 「細い」

matu-kulaaz 「やせ細っている」

matu-laitaz 「ひとが一時間でできる仕事をのろのろやって三時間もかかるような状態」 cf. ma-laitaz

matu-laizu 「草が日に当たってしおれる；人が（暑いので）元気がない」 cf. tin-laizu 「しおれる」

matu-mangha 「（人と話をするときに直に相手の顔を見ないで）上を仰ぎ見ている状態」 cf. mal-mangha

matu-nailang 「こそこそ聞く」 cf. ma-nailang

matu-naingkal 「こそこそはっきり聞く（スパイが敵の行動を盗み聞きするように）」 cf. ma-naingkal

matu-naskal 「（ひとがお土産をくれて）うれしい」 cf. ma-naskal

matu-nuas 「声がしゃがれている（風邪をひいて歌えない）」 cf. ma-nuas

matu-nungsiv 「黙っている」 masial a adii uvaaz=a hai, matu-nungsiv isnava-an. 「あの子供はよい、教わるとき静かにしている」 cf. ma-nungsiv

matu-ngalbah 「口をぽかんと開けたままにしている（まるで話すことができないよう）」 cf. ma-ngalbah 「口を開けている」

matu-ngiit 「人を見るとうれしそうにしている、ユーモアがある」 cf. ma-ngiit 「微笑む」

matu-panu 「仕事をしろといわれても、（疲れているかだるいので）やりたくない状態。」 cf. ma-panu

matu-pushun 「肉（や魚）が腐って臭いがするようになった状態」 cf. ma-pushun

matu-salpu 「心配して、何も話さないで、泣かないで、見たら悲しそう（正確な意味がわからなかったため、調査協力者の日本語による内省報告をそのまま記録した）」 cf. ma-salpu 「心配する、だれだれがいらないのをさびしく思う」

matu-sanglav 「(1) 肉が腐って青みがかかっている。(2) 叩かれたところ（尻など）が痣（あざ）になり青くなっている。(3) 相撲をとるときに馬力がない、元気がない。」 cf. ma-sanglav 「青い、緑の」

matu-sauk 「（顔を見られないように）うつむいている状態にいる」 cf. pis-sauk 「おじぎをする」

matu-savai 「makunivkuniv 負けたくない、勝ちたいとがんばっている状態」 cf. savai 「勝つ」

matu-suhdung 「かがんだ状態にいる」 cf. min-suhdung 「かがむ」

matu-suhtis 「??」 'asa tu matu-suhtis mais lus'an.

matu-suzuk 「命令されて、怒りたい、うれしくない」 cf. ma-suzuk 「とがっている」

matu-tahdung 「黒くなる、黒い状態を呈する」 cf. ma-tahdung 「黒い」

matu-taimang 「元気がなくて少し聞こえない」 cf. ma-taimang

matu-taula 「まったく聞こえない、長い間病気をして聞こえなくなった状態」 cf. ma-taula

matu-va'va 「木が腐って真ん中の芯だけが残り、かたくなった状態（家を建てる時土の中に入れても堅いから虫に食われない） cf. va'va 「木の真ん中の芯（堅い部分）」

matu-vaivi 「客が大勢来たので、純な酒 (mashing) に水を加えて味の薄い酒 (tamal) になったとき、matu-vaivi=in. という」 cf. vaivi 「違う」

matu-visvis 「??」

matu-zaingu 「??」 cf. ma-zaingu 「??」

matu-zaum 「冷蔵庫に入れておいた魚が、冷気（冷媒）がなくなって、やわらかくなった（食べられない）状態、バナナが熟して黄色くなった状態」 cf. ma-zaum 「軟らかい」

付録 2. ブヌン語の接頭辞 **matu-** と歴史的に関係があるかもしれない他の言語の接頭辞

サオ語には **matu-** という接頭辞が次の一つの語基で確かめられているという：/wishwish/ 'whirl around'；/matu-wishwish/ 'whirl, as a violent wind'。

トバ・バタック語には、**pa-** + **tu-** という接頭辞があり、きわめて望ましくないものを表す ("expresses a high degree of something undesirable") という (Nababan 1981:100)。以下は、Nababan (1981: 100) からの引用：paturápar 'suffer extreme famine; starve', from rápar 'go without food; suffer hunger'; patuŋÓŋŋ 'stand completely idle', from ŋÓŋŋ 'do nothing'; patusáOk 'be in utter confusion', from sáOk 'fry without fat'; turn over and over as in such frying'.

参考文献

Blust, Robert. 2003. Thao Dictionary. Taipei: Institute of Linguistics (Preparatory Office)

林太、曾思奇、李文甦、卜袞 (2001) 『Isbukun 布農語構詞法研究』台北市：讀冊文化

Nababan, P.W.J. 1981. A Grammar of Toba-Batak. Pacific Linguistics D-37. Canberra: The Australian National University